

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス ビビ2		公表日	2026年 2月 24日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		*子どもたちの成長や状態に合わせて、常に再構造化に取り組んでいる。*学校休業時には地域資源を利用して活動をしている。	「意外と広いね」と言われることが多いので、保護者の皆様が、気軽に中に入ってこれるようにし、様子やスペースを知ってもらえるようにしたいと思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		*必要に応じて、マンツーマンでの対応ができる体制が取れている。*スタッフのチームワークが取れており適切な人数。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		*子どもたちの成長や状態に合わせて、常に再構造化に取り組んでいる。*視覚支援を得意としており、様々なツール用意している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		*毎朝の掃除と消毒を行っている。*コーナーごとに活動を用意しており、同じ活動でも、さらに一人ひとりに合わせて用意している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		*一人で過ごせるスペースや一人で休憩できるプライベートが守られるスペースを用意しており、そのスペースで過ごす物(CDデッキや本など)も用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		*毎朝、ミーティングをしており、前日の子どもたちの様子、そこから必要なケースを開き情報共有とその日の支援の目標設定・環境設定。ロールプレイをし、放課後の時間を迎える。そして支援にあたった結果を、翌日の朝のミーティングで共有する…という一連の流れができています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		*評価表の結果についてはスタッフが周知している。業務改善はもちろんであるが、温かい言葉が並び評価表なのでスタッフ一人ひとりのモチベーションにつながっている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		*常日頃から、話ができる関係性ができているので、比較的だれもが意見を言いやすく、その意見を反映した改善をし試してまた意見を出し合うという図ができています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	*第三者委員会は設置していないが、比較の見学や来客が多く、その都度感想等をいただくので、次につなげることができている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		*内部での研修(年一回の法人全体の研修、事業所内での研修)外部のオンラインを使った研修の視聴や県の機関を使ったスタッフ派遣型の研修も行っている。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		*決められた形での支援プログラムを行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		*決められた手順に沿って作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		*原案会議については、スタッフがなるべくたくさん参加できるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		*計画を周知理解したうえで、日々のことに落とし込んだミーティングを行い、支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		*フォーマルアセスメントについては、ご家庭のご協力でWISKの結果を見せさせていただくことが多い。*インフォーマルアセスメントについては、日々の記録や必要に応じてとる記録によることが多い。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		*決められた内容に沿ってなるべく具体的に、放課後の時間に実現可能なものを精査して、個々のニーズと合わせ、目標を設定し支援内容を検討するようにしている。	ガイドラインに定められた内容と、個々のニーズが合っていない場合に、個々のニーズを大切にすることが必要だと感じている。放課後等デイサービスの限られた時間の中で何を大切にすることをしっかり考えた内容にする必要があると感じている。

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		*ミーティングやケース会で立案し、それを実現するために環境づくりだけでなく、ロールプレイもしている。そのことで、より具体的な立案ができています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		*個々のスケジュールで活動しているので、固定化されていない。*固定化するとところと変化させるところのメリハリができています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		*個が育ってからの共同という考え方で支援している。集団ではなく『それがしたいと思った人で集まる共同』という考え方で取り組むことにより、特性理解に合った計画になっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		*午前をミーティングやケース会、支援の作戦会議と準備の時間にあてている。*役割分担表で視覚的に示すことで、よりチームでの連携がしやすくなっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		*翌日のミーティングの時間に、前日の振り返りや子ども一人ひとりの情報を共有し、その日の支援の計画も話し合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		*日々の記録とは別に、必要があれば、記録用紙を作成して記録を取り、検証している。場合によってはその記録をもって、支援会議や医療受診等も保護者との協議し、行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		*日々の小さなことから自分で決めて相手に伝えることができるよう、おやつ時間にPECSを取り入れている。*スケジュールについても卒業する頃には自分のスケジュールを自分で立てることを想定して取り組んでいる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		*児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		*保護者の意向を踏まえて、医療との情報共有や受診時の付き添いを行っている。*保護者の意向を踏まえて、学校への協力体制を整えて支援している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		*学校、あるいは担任によって適切に行われる場合とそうでない場合があるが、必要が大きい子どもの場合は、家庭・学校・事業所で記録をするシートやファイルを用意し、より詳しく情報が共有できるようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		*保護者の意向と必要に応じて行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		*学校で開かれる移行支援会議に放課後等デイサービスが呼ばれることがないため、保護者の意向によって卒業後事業所への情報提供をしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	*地域の児童発達支援センターとの連携はないが、県の強度行動障害支援のアドバイザーとつながり助言や研修をしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	*必要を感じない。*子どもたちの特性を考えると、混乱させるように思う。*放課後デイで必要な取り組みでは荷ように感じる。	保護者評価表でも「必要を感じない」という意見が多かったことを踏まえ、当事業所に必要な地域交流の形を模索していきたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6		*施設長が委員として参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		*常日頃、子どもの状況を写真や動画を使って伝えていることで、ズレがなく共通理解ができています。*親御さんに時間があれば「上がっていただく」「見てください」と声をかけることで、よい関係ができていと思う。	送迎時にゆっくりお話ししたり、お伝えすることができないことも多いため、インスタグラムを始めた。そのことで様子は以前よりよく伝わっていると感じている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		*個々の相談事があった時にお伝えしている。	研修形式のものが必要なのか、個々のご家族での困りごとがある時のサポートであるべきなのか、慎重に判断し、何らかの形で、家庭での生活が楽になるお手伝いができるように考えたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		*契約時に説明している。	契約時だけでなく、掲示板やお太良などを使って、お伝えしていきたいと思う。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			面談の時間が、意向確認・ニーズの把握の時間になるようにしたいと思う。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			内容が難しくなっているので、これが生活のどの部分にあたることなのかを具体的に説明できるようにしたいと思う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			相談していただける関係を作っていきたいと思う。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	3		就労しておられる保護者様が多いこと、みなさんが学校行事や兄弟児さんのことでもお忙しいことを踏まえ、回数や開催時期・時間については検討が必要ですが、みなさんが興味をお持ちの成人施設の見学や漠然とした不安を話せるようなおしゃべり会を企画したいと考えています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		*苦情として寄せられたご意見は、なかった。	言いたくても言えないような状況ではなく、苦情まではいかない疑問や意見の段階でお話していただけるような関係を作っていきたいと思えます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		*今年度始めたインスタグラムが好評です。 *インスタグラムを「子どもと一緒に楽しみにしています」とおっしゃっていただくこともありました。	紙ベースの情報発信ができていないので、考えていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		*SNSへの写真掲載の際には、顔を隠す・名前を隠すなどをしており、個人が特定されるエピソードなどの時は事前に保護者様に許可を取ってから載せている。*外部への相談などのケースは、必ず保護者の許可をいただいている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		*事業所で使えるようになった方法をツールと一緒にご家庭に報告し、おうちで使ってもらおうことをしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	*無回答1 *地域住民を招待するような行事はしていないが、お弁当の注文や配達、お買い物など自然な形で地域の中に溶け込んでいる。	子どもたちの障害特性を考慮し、行事を行う予定はないが、自然な形で地域に溶け込む事業づくりを引き続きしていきたいと思う。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			マニュアルや計画が多すぎるため、周知がご家族の混乱になることがないように、安心につながるような周知をしたいと思えます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			マニュアルと計画がごちゃごちゃになっているところがあるので、整理しブラッシュアップしていく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		*保護者からの連絡で把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		*現在、アレルギー対象児がいない	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			紙ベースでの周知や、掲示板・SNSを使った報告などをしていきたいと思う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		*小さなことを記録し忘れがちなので、気を付けていきたい。	現在の記録シートが気軽に書けるものではないようなので、修正していきたいと思えます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		*年一回の法人全体での研修があり、スタッフ全員参加している。*一人で抱え込まない支援をみんなで心がけており、声を掛け合って交代している。	子どものパニックなどの危機的状況の時に、自分一人でどうにかしようとするのではなく、チームで声を掛け合い交代して支援することを意識していきたい。そのために平日頃のスタッフ間のやり取りなどチームワークを大切にしていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		*身体拘束の対応が必要な子の場合は、事前に保護者の同意書を得た上で手順に沿って行うようにしているが、現在は支援がうまくいっており、身体拘束という対応が必要なくなっている。		